

農薬飛散(ドリフト)防止対策

其の壱 散布技術

其の二 隣との距離

其の三 障壁の設置



コバトン & さいたまっち

埼玉県では、農薬に関する情報をホームページで公表しています。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/shokubou.html>

農薬散布に伴う周辺への飛散(ドリフト)は、隣接作物への残留や周辺住民への危被害、魚などの水産動植物や蚕への影響など、思わぬ問題を引き起こします。同時期に複数作物を作付けする場合は、特に注意が必要です。

ドリフト発生の原因と作物への農薬残留リスク

ドリフト発生の主な原因

- ・風がある(上昇気流も影響する)。
- ・散布場所から隣接作物までの距離が近い。
- ・散布圧力が高い(噴霧粒子が小さい)。
- ・農薬散布量が多い。
- ・ノズルから対象作物までの距離がある。
- ・隣接作物の方向に散布する。

残留基準を超過しやすい要因

- ・軽量、小型の作物である。
- ・可食部に直接ドリフトを受ける。
- ・収穫が近い時期にドリフトを受ける。
- ・隣接作物の農薬残留基準が低い。

注目

農薬残留リスクの高い作物

種類・形態	代表例
軽量・小型の葉菜類	こまつな、チンゲンサイ、ほうれんそう、しゅんぎく、みずな、リーフレタス、しそ
葉付き小型の根菜類	ラディッシュ、葉だいこん
小型の果実 軽量な果菜類	ブルーベリー、うめ、すもも、ピーマン、ししとう

【注意しましょう】

ドリフトの他、タンクやホース等散布器具の洗浄不足が原因で残留することがあります。

※農薬が残留基準を超える食品は流通が禁止されています。個別基準値の設定がない場合、一律基準0.01ppm(25mプールに農薬が数滴混入した濃度)が適用されます。

ドリフト対策1 農薬散布の基本技術

○ 風の弱いときに風向きに注意して散布

- ・ 3m/秒超の場合は散布しない。

○ 散布の距離や方向に注意

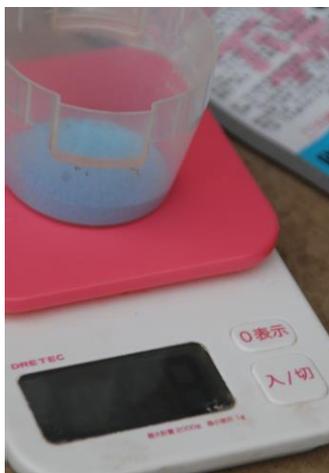
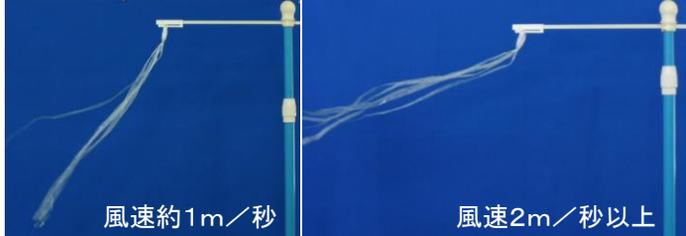
- ・ 作物にノズルを近づけ、近距離から散布する。
- ・ ほ場周縁部では、外側から内向きに散布する。

○ 適切なノズルを用いて適正な圧力で散布

- ・ 散布圧力が高いほど粒子が細かくなり、ドリフトしやすい(高圧用で散布の場合、1~1.5MPaが良い)。
- ・ ドリフト低減ノズルの利用を検討する。

○ 散布量は適正に。必要以上に散布しない。

- ・ 散布量が増えると、ドリフトの量も増加する。



希釈倍数は正確ですか？
薬液は、農薬と水量を正確に計測し、調製しましょう。

ドリフト対策2 散布技術を補完する対策

○ 近隣の栽培者や周辺住民との情報交換を大切にし、連携を取りましょう。

○ 隣接作物へのドリフトの可能性がある場合、十分な距離(緩衝帯)を確保しましょう。

また、飛散防止ネットの設置、障壁作物の植栽など、遮蔽対策を実施しましょう。

○ ドリフトが生じにくい農薬(土壌処理剤や育苗箱への処理剤等)の利用を検討しましょう。



【なす畑でのソルゴー活用事例(本庄市)】ドリフト対策と土着天敵を活用する天敵温存植物として植栽しています。



【ベニヤ板の活用事例(さいたま市)】狭い畝間での対策の例。隣接作物をビニル等で被覆することも有効です。



農薬使用についてチェックしましょう！

- 農薬のラベル(最終有効年月、適用農作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等)は確認しましたか。
- 農薬の使用量は、デジタル秤(ばかり)等で正確に計測していますか。
- 風の弱いときに、風向きに注意して散布していますか。
- 作物にノズルを近づけ近距離から散布していますか。
- 近接作物へのドリフト防止策(緩衝帯や障壁の設置等)をとっていますか。
- 散布器具(タンクやホース等)は十分洗浄していますか。
- 使用状況(使用日、使用場所、対象作物、使用量、希釈倍数等)を記帳していますか。